



## 2020年12月

---

- [Cisco DNA Spaces の概要 \(1 ページ\)](#)
- [今回のリリースでの新機能 \(3 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(3 ページ\)](#)
- [不具合 \(3 ページ\)](#)

### Cisco DNA Spaces の概要

Cisco DNA Spaces は、既存のワイヤレスに加え、Internet of Things (IoT) および Bluetooth Low Energy インフラストラクチャを活用して、Cisco DNA Spaces に組み込まれたアプリケーションを通じて実用的な知見を提供し、ビジネスの成果を促進する強力なロケーション サービス プラットフォームです。

この知見には次のものが含まれます。

- **位置分析**：時間や位置によるロケーションデータのスライスとダイスをを行い、ネットワークに接続しているユーザーの行動をより詳細に可視化する機能を提供します。
- **Right Now**：物理的スペース内のリアルタイムの訪問者数（Wi-Fi に接続されているデバイスで識別）、およびこの数を履歴平均と比較する方法を提供するレポート。**Right Now** レポートでは、使用されている認証方法に基づいて、1人のユーザーに属する複数のデバイスを検出し、それらのデバイスを1人の訪問者に属するものとしてカウントできます。また、**Right Now** アプリは、お客様の場所に導入されたカメラに基づくレポート、およびこれらのカメラが Cisco DNA Spaces クラウドに接続されているかどうかも提供します。
- **Business Insights**：人々がお客様の物理ロケーションに訪れる頻度と、それらのロケーションに滞在する時間を測定する機能を提供します。このデータは、すべてのロケーションにわたり、月単位で比較評価されます。また、ロケーションのパフォーマンスを経時的、グループ別、または業界別に比較評価する機能も用意されています。
- **影響分析**：ネットワークに接続しているユーザーの行動に対する、特定の場所でのイベント、キャンペーン、レイアウト変更の影響を測定する機能を提供します。Cisco DNA Spaces アプリケーションを使用して簡単にイベントを作成し、次の項目に基づいてその影響を測定できます。

- 滞留時間
- [Before]、[After]、[During] などの特定のタイムラインでの頻度

Cisco DNA Spaces には、キャプティブポータル、ロケーションペルソナ、エンゲージメントなどのカスタマーエクスペリエンス管理アプリが含まれており、物理的な場所にいる顧客とリアルタイムでつながることができます。また、その他のアプリケーションとして、**Asset Tracking** アプリ、**Internet of Everything (IoT)** サービス (**Bluetooth Low Energy**) を管理および設定するためのサービスマネージャ、さらにはこのデータを抽出して他のエンタープライズシステムとの関連付けまたは統合を行うためのオープン API フレームワークもあります。

Cisco DNA Spaces は、さまざまなロケーションベースのテクノロジーとインテリジェンスを通じて、これらの複数のサービスを利用するための単一のダッシュボードインターフェイスを提供します。Cisco DNA Spaces を使用すると、物理的なビジネス拠点で訪問者につながり、連携することもできます。ワークスペース、小売、製造、ホスピタリティ、ヘルスケア、教育、金融サービスなど、さまざまな業界で使用されています。Cisco DNA Spaces のアセットトラッキングアプリケーションは、オンプレミスのアセットを監視および管理するためのソリューションを提供します。Cisco DNA Spaces は、これらの情報を実行に移すためのさまざまなツールキット、アプリ、および API を提供します。

パートナープログラムを通じて Cisco DNA Spaces を使用すると、さまざまな業界のあらゆるパートナーアプリケーションに企業がアクセスできます。

Cisco DNA Spaces は、Cisco Catalyst、Cisco AireOS、および Cisco Meraki インフラストラクチャと互換性があります。

記載されているサービスに加えて、Cisco DNA Spaces アプリの範囲は、世界的なパンデミックである COVID-19 によって生じるビジネス要件を満たすために拡張されました。拡張機能は既存のアプリケーションに基づいて構築されており、COVID-19 と関連する特定の要件を満たすために新しいアプリケーションが追加されています。Impact Analytics、Location Analytics、行動メトリクス、Right Now などのアプリの拡張機能を使用すると、ビジネス拠点に及ぼす COVID-19 の影響を分析し、適切なアクションを実行できます。たとえば、特定の場所のデバイス密度に基づくルールを作成し、その場所の人数が特定の数または密度（エリアあたりの人数）を超えた場合に自動的に通知を受けられるようになりました。Location Analytics アプリには、エグゼクティブサマリーレポートを組織内の同僚と共有する機能が追加されました。さらに、行動メトリクスアプリを使用して、個人またはグループのロケーションに関する COVID-19 ベースの傾向分析を実行できるようになりました。これにより、特定のビジネスロケーションを組織全体と比較したり、特定の業界と比較したりすることもできます。

Cisco DNA Spaces の Proximity Reporting アプリでは、影響を受けるデバイスの位置履歴やデバイス近接履歴をすばやく確認できます。ユーザー ID または MAC アドレスに基づいて、過去 14 日間の建物内におけるデバイスの位置に関するレポートが、他のデバイスとの近接度とともに生成されます。このレポートは、共有機能を使用してエクスポートまたは共有することもできます。同様に、検出と位置特定アプリには、デバイスを特定の数にクラスタ化して、ソーシャルディスタンスのガイドラインに違反している可能性のある領域を確認して報告する機能が追加されました。

セットアップや構成を含む、Cisco DNA Spaces の詳細については、『[Cisco DNA Spaces Configuration Guide](#)』を参照してください。

## 今回のリリースでの新機能

### パートナー ダッシュボード

次の機能が Cisco DNA Spaces パートナーダッシュボードに導入されました。

パートナーは、Cisco DNA Spaces パートナーダッシュボードで次のタスクを実行できます。

- アプリをコピー、表示、または削除する
- 米国と EU 領域内および間でアプリをコピーする
- [New]、[Testing]、[Submitted] の状態のアプリを削除する
- [View] オプションを使用して、アプリのすべての構成を表示します。

## このリリースでの変更点

### パートナー ダッシュボード

Cisco DNA Spaces パートナーダッシュボードには、次の機能強化が加えられました。

- API キー：クラウドアプリの場合、API キーは **Live** アプリと **Draft** アプリの両方で同じになります。Draft アプリ（クラウド）の API キーの `[_draft]` サフィックスが削除されました。
- Draft アプリ：アプリが同じ Cisco DNA Spaces アカウントを使用して作成およびアクティブ化されている場合、ドラフト構成が適用されます。
- Live アプリ：アプリが異なる Cisco DNA Spaces アカウントを使用して作成およびアクティブ化された場合、ライブ設定が適用されます。

## 不具合

不具合では、Cisco DNA Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は `CSCxxNNNNN` というパターンで、`x` は任意の文字 (a ~ z)、`N` は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

## Cisco Bug Search Tool

[Cisco Bug Search Tool](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

## 未解決の注意事項

ここでは、Cisco DNA Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。これまでのリリースで未解決で、現在も解決されていない不具合は、修正されるまで、今後のすべてのリリースにも該当します。

表 1: Cisco DNA Spaces の未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
<a href="#">CSCvu98859</a>	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
<a href="#">CSCvv16880</a>	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある。
<a href="#">CSCvv28936</a>	[Detect & Locate] で、Kontakt BLE デバイスをフィルタリングするオプションを提供する。
<a href="#">CSCvv34216</a>	コネクタが HA ペアで再起動すると、ControllerChannel と APChannel がコネクタ間で分割される
<a href="#">CSCvv64362</a>	カスタム AP グループの GRPC とアプリホストを自動有効にするオプションを提供する
<a href="#">CSCvv91424</a>	特定のルール的一致/スキップ数がしきい値を超えると、密度ルールレポートが表示されない

## 解決済みの問題

ここでは、Cisco DNA Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

このリリースで修正されたバグはありません。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。